

[HOME](#) [PATENTWEB](#) [TRADEMARKWEB](#) [WHAT'S NEW](#) [PRODUCTS&SERVICES](#) [ABOUT MICROPATENT](#)

Search



List



First



Prev



Next



Last

MicroPatent's Patent Index Database: Record 3 of 6 [Individual Record of JP8099853A]

[Order This Patent](#)[Family Member\(s\)](#)

[no drawing available]

JP8099853A ☐ 19960416

Title: (ENG) SKIN COSMETIC

Abstract: (ENG)

PURPOSE: To provide a skin cosmetic which is prepared by dispersing particles containing oily substances of large diameters in an aqueous medium, thus is excellent in storage stability because the useful components in the particles do not contact with the continuous phase, shows good appearance and can be readily produced.

CONSTITUTION: This cosmetic products can be prepared by dispersing particles of 0.2- 10mm diameter, containing oily substances (preferably can keep the particle forms at a temperature lower than 40°C) in an aqueous medium. The particle substances is obtained by, for example, by heat-melting a composition or an emulsion comprising an oily substance such as olive oil, oil-soluble substances such as cholesterol, surfactant, water and water- soluble substances such as water-soluble vitamins, dropping the melted composition into an aqueous medium at a temperature 5-50°C lower than that the melted product, preferably by dripping a melted mixture of W/O type emulsion or a melted mixture of oily substances having more than 20°C different melting point into the aqueous medium. It is preferred that the aqueous medium in which the oily substance is to be dispersed is an emulsion containing water and the above-stated oily components.

Application Number: JP 23799094 A

Application (Filing) Date: 19940930

Priority Data: JP 23799094 19940930 A X;

Inventor(s): YAMADA NOBORU

Assignee/Applicant/Grantee: T S AASU KK ; YAMADA NOBORU

IPC (International Class): A61K00748; A61K00700

Other Abstracts for Family Members: CHEMABS125(06)067208S; DERABS C96-246885

Other Abstracts for This Document: CAN125(06)067208S; DERC96-246885

Legal Status: There is no Legal Status information available for this patent



Search



List



First



Prev



Next



Last

Copyright © 2002, MicroPatent, LLC. The contents of this page are the property of MicroPatent LLC including without limitation all text, html, asp, javascript and xml. All rights herein are reserved to the owner and this page cannot be reproduced without the express permission of the owner.

4/7/5

DIALOG (R) File 352:Derwent WPI

(c) 2004 Thomson Derwent. All rts. reserv.

010749930

WPI Acc No: 1996-246885/199625

Cosmetic material for skin - comprises particles contg. oil matter
dispersed in aq. medium

Patent Assignee: TS EARTH KK (TSEA-N); YAMADA N (YAMA-I)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

| Patent No | Kind | Date | Applicat No | Kind | Date | Week |
|------------|------|----------|-------------|------|----------|----------|
| JP 8099853 | A | 19960416 | JP 94237990 | A | 19940930 | 199625 B |

Priority Applications (No Type Date): JP 94237990 A 19940930

Patent Details:

| Patent No | Kind | Lan | Pg | Main IPC | Filing Notes |
|------------|------|-----|----|-------------|--------------|
| JP 8099853 | A | | 7 | A61K-007/48 | |

Abstract (Basic): JP 8099853 A

Particle of dia. 0.2-10 mm contg oil matter is dispersed in the aq.
medium.

ADVANTAGE - The material has good stability and is easily produced.
Dwg. 0/0

Derwent Class: D21

International Patent Class (Main): A61K-007/48

International Patent Class (Additional): A61K-007/00

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-99853

(43) 公開日 平成8年(1996)4月16日

| (51) Int.Cl. ⁴ | 識別記号 | 庁内整理番号 | F I | 技術表示箇所 |
|---------------------------|------|--------|-----|--------|
| A 6 1 K 7/48 | | | | |
| 7/00 | N | | | |

審査請求 未請求 請求項の数11 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平6-237990

(22) 出願日 平成6年(1994)9月30日

(71) 出願人 591282102
株式会社ディーエスアース
東京都中央区京橋1丁目17番6号

(71) 出願人 391000656
山田 昇
兵庫県芦屋市伊勢町5の9

(72) 発明者 山田 昇
兵庫県芦屋市伊勢町5番9号

(74) 代理人 弁理士 高島 一

(54) 【発明の名称】 皮膚用化粧品

(57) 【要約】

【構成】 油状物質を含む直径0.2~1.0mmの粒状物を水性媒体に分散させてなる皮膚用化粧品。

【効果】 本発明の化粧品は、物理的、化学的、微生物学的な安定性に優れた化粧品であるばかりでなく、美観にも優れ、さらに製造にあつたては、高度な技術が要求されることもない。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 油状物質を含む直径0.2～10mmの粒状物を水性媒体に分散させてなる皮膚用化粧品。

【請求項2】 水性媒体が水、または水と水溶性物質および/または油性成分、必要に応じて界面活性剤とを含む混合物である請求項1記載の皮膚用化粧品。

【請求項3】 水性媒体が水と油性成分とを含む乳化物である請求項1記載の皮膚用化粧品。

【請求項4】 水性媒体の乳化物を構成する油性成分が、油脂類、ワックス類、脂肪酸類および炭化水素類から選ばれる少なくとも1種である請求項3記載の皮膚用化粧品。

【請求項5】 クリームである請求項1～4のいずれか記載の皮膚用化粧品。

【請求項6】 乳液である請求項1～4のいずれか記載の皮膚用化粧品。

【請求項7】 化粧水である請求項1～4のいずれか記載の皮膚用化粧品。

【請求項8】 美容液である請求項1～4のいずれか記載の皮膚用化粧品。

【請求項9】 油状物質を含む直径0.2～10mmの粒状物を形成し、これを水性媒体に混合させることを特徴とする皮膚用化粧品の製造法。

【請求項10】 水性媒体が水と油性成分とを含む乳化物である請求項9記載の皮膚用化粧品の製造法。

【請求項11】 化粧品がクリーム、乳液、化粧水あるいは美容液である請求項9あるいは10記載の皮膚用化粧品の製造法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、皮膚用化粧品、および皮膚用化粧品の製造法に関する。さらに詳しくは、保存安定性が向上し、かつ美観にも優れた皮膚用化粧品、およびこのような皮膚用化粧品の製造法に関する。

【0002】

【従来の技術】クリーム、乳液、化粧水などの基礎化粧品は、一般的に油性成分と水性成分からなり、保存安定性が良いことが要求される。保存中に構成成分が個々の成分に分離したり、酸化や加水分解などの化学変化を起したり、あるいはカビや微生物が増殖したりしては、製品の安全性に問題が生じる結果となる。これらの基礎化粧品は、油性成分と水性成分とを混合して可溶化させたり、油性成分と水性成分とを混合、攪拌して乳化、分散させて製造されるのが一般的である。そのためこのような化粧品では、物理的・化学的安定性を得るために配合割合や製造条件などに高度の技術が要求されたり、化学変化防止やカビなどの発生防止のために安定剤や防腐剤などの保存料が添加されたりしていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしこれらの安定剤

や保存料には、皮膚刺激性や発癌性など人体に好ましくない作用を持つ可能性があると考えられるものもある。このように、物理的・化学的に安定な製品を容易に製造する技術と同時に、安定剤や保存料の使用量を減らすことが求められていた。本発明の目的は、上記した従来品の欠点を解消し、かつ製造が容易な化粧品を提供することである。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明者は、上記目的を達成するために鋭意研究した結果、油状物質からなる粒状物を水性媒体に含有させることによって上記目的が達成できることを発見し、本発明を完成した。すなわち本発明は、油状物質を含む直径0.2～10mmの粒状物を水性媒体に分散させてなる皮膚用化粧品に関する。また本発明は、油状物質を含む直径0.2～10mmの粒状物を形成し、これを水性媒体に混合させることを特徴とする皮膚用化粧品の製造法に関する。本発明の化粧品は、保存安定性に優れるばかりでなく、美観にも優れ、かつ製造にあたって高度の技術も要求されない。

【0005】本発明で使用される粒状物は、油状物質、またはこれと該油状物質に溶解しうる油溶性物質の混合物、さらに必要に応じて界面活性剤を加えて水および/または水溶性物質を含有させたものからなるものである。

【0006】油状物質は、それ単独で50℃以下、好ましくは40℃以下で粒状を保ちうるものであることはもちろん、他の成分（ここで他の成分とは、疎水性物質も包含する概念である）と混合することによって50℃以下で粒状を保ちうるものであれば、それ自体液体、固体の区別なく使用しうる。たとえば、油脂類、脂肪酸類およびそのエステル化合物、ワックス類、パラフィン類（炭化水素）などが挙げられるが、これらに限定されるものではない。すなわち、化粧品の原料として使用される油状物質（疎水性物質）であれば問題はない。具体的に列挙すれば枚挙にいとまがないが、そのうちの極一部を列挙すれば次の通りである。

【0007】たとえば、オリーブ油、トウモロコシ油、大豆油、マカデミニアナット油、綿実油、ホホバ油、スクワラン、硬化油、固形パラフィン、流動パラフィン、バルミチン酸イソプロピル、カカオ脂、牛脂、カルナバロウ、ミツロウ、キャンデリラロウ、ステアリン酸、バルミチン酸、オレイン酸、ラノリン、ソルビタン脂肪酸、グリセリン脂肪酸、ショ糖脂肪酸、トコフェロール、β-カロチン、アスコルビン酸ステアリル、ワセリン、サフラワー油、シリコーン油などが挙げられる。これらは単独あるいは混合物として使用される。

【0008】上記油状物質には、該油状物質に溶解しうる油溶性物質を含有させることができる。該油溶性物質としては、上記油状物質に保持され、粒状を保って使用されるものであれば特に制限なく使用しうる。たとえ

ば、油溶性ビタミン、油溶性の動植物抽出物、コレステロール、ホルモン、油溶性の生理活性を示す物質、香料、色素などが例示されるが、これらに限定されない。これらは単独あるいは混合物として使用される。油状物質にこれらの油溶性物質を添加する時、必要に応じて界面活性剤を使用してもよい。

【0009】粒状物における油溶性物質の含有量は、通常0.01~30 (w/v) %、好ましくは0.05~20 (w/v) %、さらに好ましくは0.1~5 (w/v) %である。

【0010】上記油状物質あるいは油状物質と油溶性物質との混合物には、必要に応じて、界面活性剤を加えて水および/または水溶性物質を含有させることもできる。水溶性物質の具体例として、水溶性ビタミン、水溶性の動植物抽出物、水溶性の生理活性を示す物質、香料、色素、保湿性物質（グリセリン、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール、尿素、ヒアルロン酸、ソルビトール、キサンタンガム、アラビアガムなど）などが挙げられる。

【0011】粒状物における水および/または水溶性物質の含有量は、通常0.01~40 (w/v) %、好ましくは0.1~30 (w/v) %、さらに好ましくは0.5~25 (w/v) %である。

【0012】界面活性剤としては、通常使用される非イオン性界面活性剤が好ましく使用される。具体例としては、ソルビタン脂肪酸エステル、グリセリン脂肪酸エステル、ポリグリセリン脂肪酸エステル、ポリエチレングリコール脂肪酸エステルなどが挙げられる。

【0013】粒状物は、たとえば、上記油状物質、あるいはこれと油溶性物質、界面活性剤、水および水溶性物質の少なくとも1種類からなる組成物あるいは乳化物を、加熱溶解し、当該溶解物より5~50℃低い温度の水溶性溶媒中に落下することによって粒状物とすることができる。特にW/O型乳化物の溶解物、あるいは融点の異なる、好ましくは20℃以上の差のある2種以上の油状物質からなる混合物の溶解物を水性溶媒中に落下するのが好ましい。水性溶媒としてエタノール水溶液、メタノール水溶液、2-プロパノール水溶液、アセトン水溶液などが例示される。落下の方法に特別の限定はなく、滴下する、ノズルを使用して噴出するなどの方法が適用できる。

【0014】上記粒状物は、50℃以下、好ましくは40℃以下で粒状を保ちうるものである。また、該粒状物を指で軽く圧したときに容易に潰れるものである。このばあいには要する圧力は温度によって著しく変化するものであるが、たとえば、25℃において直径2.5mmの粒状物1個あたり5~10g（静止荷重）を负荷した時に崩壊するものである。

【0015】粒状物の直径は、0.2~10mm、好ましくは0.3~5mm、さらに好ましくは0.5~2.5mmである。

化粧水として使用するばあい、粒状物の径は0.2~4mm、好ましくは0.3~2mm、さらに好ましくは0.5~1.0mmである。乳液として使用するばあい、径は0.2~10mm、好ましくは0.5~3mm、さらに好ましくは0.8~2mmである。クリームとして使用するばあい、径は0.2~6mm、好ましくは0.5~3mm、さらに好ましくは0.8~2.5mmである。さらに美容液として使用するばあい、径は0.2~10mm、好ましくは0.3~3mm、さらに好ましくは0.5~1.5mmである。粒状物の形状に特別の限定はない。たとえば、球状のもの、円盤状のもの、円錐状のもの、ナス形のものなどが使用しうる。なお粒状物として、コレステリック液晶を使用してもよい。該コレステリック液晶はそれ単独で使用してもよいし、油状物質を含む粒状物と併せて使用してもよい。

【0016】上記粒状物を分散させる水性媒体としては、水、あるいは水と水溶性物質および/または油性成分、必要に応じて界面活性剤を含む混合物が挙げられる。混合物の形態は、たとえば、水溶液、乳化物、可溶化物などが挙げられる。水溶性物質の具体例として、カルボキシビニルポリマー、アルギン酸ナトリウム、寒天、ゼラチン、セルロース誘導体、ヘクテン、キサンタンガム、ポリビニルピロリドン、グリセロール、プロピレングリコール、ポリエチレングリコールなどの水溶性ゲル、エタノールやイソプロパノールなどのアルコール、ヒアルロン酸、ソルビトール、マルチトールなどの糖類、ピロリドンカルボン酸などのアミノ酸、胎盤抽出物、コラーゲンなどが挙げられる。これらは単独あるいは混合して使用できる。

【0017】油性成分は、水と混合したとき、必要に応じて界面活性剤と併用して乳化物あるいは可溶化物を形成するものであれば、特に制限なく使用できる。特に動植物性油脂、ワックス類、シリコン油などが好ましい。該油性成分の好ましい具体例として、オリーブ油、マカデミアナット油、ワセリン、ミツロウ、流動パラフィン、スクワラン、ホホバ油、シリコン油などが挙げられる。

【0018】乳化物、可溶化物は、油性成分と水、あるいは油性成分、水および水溶性物質との組み合わせであってもよいし、さらにこれらに、界面活性剤を併用してもよい。使用しうる界面活性剤としては、粒状物に使用されるものと同じ、非イオン性界面活性剤が好ましい。具体的には、ソルビタン脂肪酸エステル、グリセリン脂肪酸エステル、ポリグリセリン脂肪酸エステル、ポリエチレングリコール脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン脂肪酸エステルなどが挙げられる。水溶性物質としては、前述した水溶性ゲルやアルコールなどがあげられる。

【0019】乳化、可溶化は通常の方法で行われる。た

例えば乳化は、ホモミキサーやホモジナイザー、超音波乳化機などを用いる方法が行われるが（このばあい乳化物中の粒子は通常数十 μm 以下である）、高速攪拌機による簡便な乳化によっても目的を達成することができ、通常の化粧水や美容液はクリームや乳液に比べて油性成分が少ないが、本発明の化粧品では油状物質からなる粒状物を水性媒体に分散させることができるので、通常の化粧水や美容液より油性分を多量に含ませることが可能になる。また乳液やクリームは通常白濁色をしているものが多いが、本発明の化粧品では着色された粒状物を使用できるので、得られる製品は特に美観の優れたものになる。

【0020】本発明の皮膚用化粧品は、水性媒体中に粒状物を分散、浮遊あるいは沈殿させてなるものであるが、水性媒体中に分散等される粒状物の量は、目的物によって適宜決められるものであるが、通常0.1～40重量%、好ましくは0.2～20重量%、さらに好ましくは0.5～15重量%である。特に化粧水のばあい0.5～10重量%、乳液のばあい1.0～15重量%、クリームのばあい2.0～15重量%、美容液のばあい0.5～10重量%が好ましい。

【0021】

【作用】現在市販されている乳液やクリームは、水性媒体（連続相）中に分散している粒状物の直径が数十 μm 以下である。それに比べ、本発明の化粧品に含まれる油状物質またはこれと油溶性物質との混合物からなる粒状物は、直径が0.2～10mmと従来のものと比べ非常に大きい。このような粒子径の大きい粒状物が水、水溶液あるいは乳化物である水性媒体中に分散、浮遊あるいは沈殿している。したがって、本発明の化粧品中に存在する粒状物が連続相と接触する表面積は、従来のものに比較して極めて小さいものとなる。その結果、粒状物と連続相との相互作用は少なくなり、安定性が向上する結果となる。特に粒子内部に存在する化粧品の有用な成分であるコレステロール、ビタミン類、ホルモン、色素などは連続相と接触することがなく、分離される。そのた*

乳液の組成

| | |
|---------------------|----------|
| ミツロウ | 3.5 部 |
| ステアリン酸 | 1.45 部 |
| オリーブ油 | 10.5 部 |
| マカデミアナット油 | 8.5 部 |
| リノール酸 | 3.0 部 |
| プロピレングリコール | 1.0 部 |
| カルボキシビニルポリマー（2%水溶液） | 10.0 部 |
| ソルビタンセスキオレイン酸エステル | 0.3 部 |
| 精製水 | 61.1 部 |
| α -トコフェロール | 0.05 部 |
| トリエタノールアミン | 0.5 部 |
| 香料・防腐剤 | 0.1 部 |
| | 100.00 部 |

*め両者の間には何ら相互作用が生じることがなく、保存中の化学安定性が向上する。また油状粒子が直接空気に触れることがないので、粒子中の有用成分は酸化を受けにくくなり、化学的安定性が向上する。さらに微生物学的にも、化粧品全体を考えると水溶性物質と油溶性物質とが分離されているので栄養分が分割される結果となり、微生物などの増殖が抑制される。このような作用を有することから、本発明は物理的、化学的および微生物学的に安定性の高い、優れた化粧品である。

【0022】

【実施例】以下実施例を挙げて本発明をさらに詳しく説明するが、本発明は下記の実施例に限定されるものではない。なお、実施例中、部および%は断らない限り重量部、重量%である。

【0023】実施例1

（粒状物の調製）ミツロウ7gをステアリン酸2.9g、オリーブ油19g、アカデミアナット油15g、リノール酸6gおよび α -トコフェロール0.1gとともに70℃に加熱、融解した。融解混合後、30℃に調節した75%エタノール水溶液中に滴下し、直径2.0mmの粒状物を得た。

（水性媒体の調製）オリーブ油1.0g、マカデミアナット油1.0g、ソルビタンセスキオレイン酸エステル0.3g、香料・防腐剤0.1gを70℃に加熱し、攪拌した。該混合物を70℃に加熱した精製水61.1gに攪拌しながら徐々に加えた。添加後、直ちにホモミキサーで5分間乳化した。次いでプロピレングリコール1.0gとカルボキシビニルポリマー（2%水溶液）10gを加え、攪拌しながら20℃まで冷却し水性媒体を得た。

（乳液の調製）水性媒体が20℃になったことを確認した後、先に調製した粒状物25gとトリエタノールアミン0.5gを添加し、さらに穏やかに攪拌して、下記に示す組成をもつ乳液を得た。

【0024】

【0025】保存安定性試験

得られた乳液を $45 \pm 2^\circ\text{C}$ の恒温器内で6カ月間保存し、乳液中の油脂成分の過酸化値の変化を調べた。結果を表1に示す。

【0026】比較例1

実施例1の乳液組成と同じ構成成分で、同じ組成比を持つ乳液を、粒状物を形成せずに製造した。すなわち、 70°C に加熱した精製水61.1gに、 70°C に加熱したミツロウ3.5g、ステアリン酸1.45g、オリーブ油10.5g、マカデミアナット油8.5g、リノール酸3.0g、ソルビタンセスキオレイン酸エステル0.3g、 α -トコフェロール0.05gおよび香料・防腐剤0.1gを加え、乳化した。次にプロピレングリコール1.0gとカルボキシビニルポリマー（2%水溶液）1.0gとを加え、攪拌しながら 20°C まで冷却し、乳液を得た。得られた乳液の保存安定性を実施例1と同様にして測定した。結果を表1に示す。

【0027】

【表1】

乳液の過酸化値（単位：meq/l）

| | 調製直後 | 1カ月後 | 3カ月後 | 6カ月後 |
|------|------|------|------|------|
| 実施例1 | 8.1 | 8.2 | 8.4 | 8.9 |
| 比較例1 | 7.9 | 9.9 | 16.2 | 41.5 |

【0028】表1に示すように、比較例1では過酸化物質*
マッサジクリームの組成

| | | |
|-------------------|--------|---|
| ミツロウ | 9.0 | 部 |
| ワセリン | 5.0 | 部 |
| カルナバワックス | 0.6 | 部 |
| キャンデリラワックス | 1.8 | 部 |
| 固型パラフィン | 1.2 | 部 |
| 牛脂 | 1.2 | 部 |
| Gly-stearate | 0.06 | 部 |
| サフラワー油 | 5.86 | 部 |
| ホホバ油 | 6.0 | 部 |
| グリセリンモノステアリン酸エステル | 2.5 | 部 |
| ソルビタンモノキオレイン酸エステル | 3.0 | 部 |
| スクワラン | 2.78 | 部 |
| 流動パラフィン | 20.5 | 部 |
| β -カロチン | 0.3 | 部 |
| 1,3-ブチレングリコール | 4.0 | 部 |
| アスコルビン酸ナトリウム | 0.2 | 部 |
| 香料 | 0.1 | 部 |
| メチルパラベン | 0.1 | 部 |
| 精製水 | 35.8 | 部 |
| | 100.00 | 部 |

* 価の上昇が認められたが、実施例1の乳液では過酸化値の変化は認められず、化学的安定性に優れた製品であることがわかる。

【0029】実施例2

（粒状物の調製）ミツロウ6g、キャンデリラワックス6g、固型パラフィン6g、牛脂6g、グリセリンモノステアリン酸エステル（Gly-stearate）0.3g、サフラワー油29.3g、ホホバ油30g、スクワラン13.9gおよび β -カロチン（ β -カロチンを3%含有するバーム油）1.5gの混合物を 70°C に加熱、融解した。融解後、粉末状のアスコルビン酸ナトリウム1.0gを添加、分散した。得られた混合物を、 30°C に調整した80%イソプロパノール水溶液中に落下して、直径1.0~1.8mmの粒状物を得た。

（水性媒体の調製）ミツロウ7.8g、ワセリン5.0g、カルナバワックス0.6g、キャンデリラワックス0.6g、流動パラフィン20.5g、グリセリンモノステアリン酸エステル2.5g、ソルビタンモノキオレイン酸エステル3.0gおよび香料0.1gを 75°C に加熱し、攪拌した。得られた混合物に 75°C に加熱した精製水35.8g、1,3-ブチレングリコール4.0g、防腐剤（メチルパラベン）0.1gを加え、攪拌し、乳化物（水性媒体）を得た。

（クリームの調製）得られた水性媒体を攪拌しながら 30°C まで冷却した。 30°C で、先に調製した粒状物20gを得られた乳化物に添加し、均等に分散させて下記に示す組成を持つマッサジクリームを得た。

【0030】

【0031】保存安定性試験

得られたクリームを $40 \pm 2^\circ\text{C}$ の恒温器内で6カ月間保存し、クリーム中のアスコルビン酸ナトリウムの含有量の変化を高速液体クロマトグラフィーを用いて測定した。結果を表2に示す。

【0032】比較例2

実施例2のクリームと同じ構成成分で同じ組成比を持つクリームを、粒状物を形成せずに製造した。すなわち、ミツロウ、ワセリン、カルナバワックス、キャンデリラワックス、固型パラフィン、牛脂、Gly-stearate、 β -カロチン、サフラワー油、ホホバ油、スクワラン、流動パラフィン、グリセリンモノステアリン酸エステル、ソルビタンモノキオレイン酸エステルおよび香料を 75°C に加熱、混合したものに、 70°C に加熱した1,3-ブチレングリコール、メチルパラベン、アスコルビン酸ナトリウム、精製水の混合物を加え攪拌、乳化し、これを室温まで冷却してマッサージクリームを得た。実施例2と同様の方法で保存安定性を測定した。結果を表2に示す。

【0033】

【表2】

クリーム中のアスコルビン酸ナトリウム含有量(重量%)

| | 調製直後 | 1カ月後 | 3カ月後 | 6カ月後 |
|------|------|------|------|------|
| 実施例2 | 0.20 | 0.20 | 0.20 | 0.19 |
| 比較例2 | 0.20 | 0.14 | 0.08 | 0.01 |

【0034】表2が示すように、比較例2ではアスコルビ化粧水の組成

キャンデリラワックス

スクワラン

ホホバ油

オリーブ油

ヒノキチオール

IPP

タルク

STO

エタノール

ソルビトール

ポリエチレングリコール1500

グリセリン

メチルセルロース

香料

ソルビン酸

精製水

1.0 部

0.1 部

0.2 部

2.5 部

0.01 部

0.29 部

0.8 部

0.1 部

10.0 部

4.0 部

5.0 部

2.0 部

0.2 部

適量

0.1 部

73.6 部

100.00 部

【0038】保存安定性試験

* ビン酸ナトリウム含有量が経時的に減少することが認められた。一方、実施例2のマッサージクリームは、アスコルビン酸ナトリウムの含有量に変化は認められず、化学的安定性に優れたものであることが明らかになった。

【0035】実施例3

(粒状物の調製) ミツロウ10g、牛脂10g、オリーブ油10g、ホホバ油10g、イソプロピルパルミチン酸エステル10gおよび月見草油10gの混合物を 70°C に加熱、融解した。融解混合後、 30°C に調整した80%イソプロパノール水溶液中に落下させ、直径2.0~2.5mmの粒状物を得た。

(クリームの調製) 得られた粒状物10gをカルボキシビニルポリマー水溶液(0.2%カーボボール#941)90g中に分散して、透明な栄養クリームを得た。

【0036】実施例4

(粒状物の調製) キャンデリラワックス10g、スクワラン1g、ホホバ油2g、オリーブ油25g、イソプロピルパルミチン酸エステル(IPP)2.9g、ヒノキチオール0.1g、ソルビタントリオレイン酸エステル(STO)1.0gおよびタルク8gの混合物を 70°C に加熱、融解した。融解混合後、 30°C に調整した75%エタノール水溶液中に滴下し、直径0.8~1.0mmの粒状物を得た。

(水性媒体の調製) 精製水にエタノール、ソルビトール、ポリエチレングリコール1500、グリセリン、メチルセルロース、香料およびソルビン酸を溶解し、水性媒体を得た。

(化粧水の調製) 得られた水性媒体に先に得られた粒状物を添加し、穏やかに攪拌して、粒状物が均一に分散した、下記に示す組成を持つ化粧水を得た。

【0037】

50 得られた化粧水を室内で6カ月間静置保存し、化粧水の

外観の変化を観察した。結果を表3に示す。

【0039】比較例3

実施例4の化粧水と同じ構成成分で同じ組成比を持つ化粧水を、粒状物を形成せずに製造した。すなわち、キャンドリラワックス、スクワラン、ホホバ油、オリーブ油、IPP、ヒノキチオールおよびSTOの混合物を70℃に加熱混合し、これをタルク、エタノール、ソルビトール、ポリエチレングリコール1500、グリセリン、メチルセルロース、香料、ソルビン酸および精製水の混合物に添加、攪拌して、化粧水を得た。実施例4と同様にして保存安定性を試験した。結果を表3に示す。

【0040】

【表3】

化粧水の外観変化

| | 1カ月後 | 3カ月後 | 6カ月後 |
|------|------|-------|-------|
| 実施例4 | 変化なし | 変化なし | 変化なし |
| 比較例3 | 変化なし | 二層に分離 | 二層に分離 |

【0041】表3から明らかなように、比較例3の化粧水は水相と油相との二相に分離し、さらにタルクが底部に沈殿したが、実施例4の化粧水は、そのような外観の変化は認められず、安定性に優れるものであることがわかる。

【0042】実施例5

*

シャーレ中の美容液の外観

| | 1カ月後 | 3カ月後 | 6カ月後 |
|------|-----------|--------|--------------|
| 実施例5 | 変化なし | 変化なし | 変化なし |
| 比較例4 | 表面にコロニー5個 | コロニー増大 | 全体がコロニーで覆われる |

【0046】表4から明らかなように、比較例4の美容液は、表面に顕著なカビの発生が認められた。一方、実施例5の美容液は、カビの発生も認められず、微生物の汚染に対しても安定であることがわかる。

【0047】実施例6

70℃に加熱したコレステロール液晶1gを0.01%アテロコラーゲン、0.1%ヒアルロン酸ナトリウム、0.1%DNA、0.2%カルボキシビニルポリマーを

* (粒状物の調製) ミツロウ7gをオリーブ油10g、ホホバ油20g、IPP10g、コレステロール0.5gおよび大豆レシチン2.0gの混合物に加熱溶解し、これにオウゴンエキス0.2g、ブラセンタエキス0.2g、DNA0.1gおよび65℃に加熱した水20gを添加し、ホモジナイザーを用い、乳化した。乳化物を30℃に調整した70%イソプロパノール水溶液中に落下し、直径0.4~1.5mmの粒状物を得た。

(美容液の調製) 得られた粒状物10gを、金箔0.5mgを分散させた0.2%カルボキシビニルポリマー水溶液90gに分散させ、透明で外観の美しい美容液を得た。

【0043】保存安定性試験

美容液10mlをプラスチック製滅菌済シャーレに移し、37℃で6カ月間静置保存し、外観を観察した。結果を表4に示す。

【0044】比較例4

実施例5の美容液と同じ構成成分で同じ組成比を持つ美容液を、粒状物を形成せずに製造した。すなわち、ミツロウ、オリーブ油、ホホバ油、IPP、コレステロール、大豆レシチンの混合物をオウゴンエキス、ブラセンタエキス、DNA、カルボキシビニルポリマーおよび水から構成される水溶性成分中に乳化させ、更に金箔を分散させて美容液を得た。実施例5と同様にして保存安定性を試験した。結果を表4に示す。

【0045】

【表4】

含有する水溶液100g中に滴下、分散させて保湿性のある美容液を得た。

【0048】

【発明の効果】本発明の化粧品は、物理的、化学的、微生物学的な安定性に優れた化粧品であるばかりでなく、美観にも優れ、さらに製造にあったては、高度な技術が要求されることもない。